



大雪、低温が暮らしを直撃!



沢谷交流センター

年明けは近年にない暖冬でスタートし、とんど焼きもいい天気で行いました。誰もが安心していた矢先、19日からとんど雪が降り始め、20日には交流センター駐車場まで25センチ、そして25日には約60センチの大雪となりました。60センチも降るのは本当に久しぶりで、しかも重たい雪によりあちこちで倒木被害が発生。除雪作業の妨げになったり、また停電の原因となりました。雪は沢谷地域より大和方面でたくさん降って、比之宮では1メートルを越す降雪となりました。



比之宮交流センター

24日の日曜日にはマイナス6〜7度まで気温が下がって、あちこち



で凍結被害が発生。26日頃からは凍結が緩んできたことにより、水道の漏水や給湯器や温水器の破裂があちこちで続出。それが原因となって水源地の水が少なくなつて、酒谷九日市地区や熊見地区、湯谷地区で断水となりました。

役場と業者により漏水箇所を調査しましたが、雪で量水器の場所がわからず、また空き家も多いことなどもあつて調査も難航しました。

その間、27日、28日は沢谷交流センターを給水ポイントにして、断水地区を対象に夕方から給水を行いました。容器のある家庭は容器を

持ってきてもらい、高齢者など外出困難世帯には自治会長の応援

をいただきながら、協力隊といっしょに水を配達しました。

29日(金)には熊見と酒谷九日市地区は断水が解消。しかし、湯谷、千原、石原地区で水に濁りが発生し、飲料水に使えないため30日(土)には全世帯へ水の配達をしました。

それも31(日)の朝には解消し、やっといつもの暮らしに戻りました。停電はなかったものの、凍結による漏水被害が大発生し、空き家なども多いことから、こうした災害時の対応に大きな課題を残しました。

今回の対応では町内全域で被害が発生し、役場職員も人手不足となり連合自治会に給水の応援依頼がありました。断水地区の自治会長さんも、独居世帯への給水など積極的に応援いただきました。

役場からも「沢谷地域の応援体制はありがたい。」と感謝の言葉をいただきました。こうした災害時に独居宅を回って声をかけることが見守り、安心につながり、思いがけない降雪被害でしたが、沢谷地域の温かい絆を感じました。



●●●●定住・空き家対策研修●●●●

2月4日、5日の二日間、沢谷地域連合自治会の役員で江津市波子町、山口市阿東町に視察研修に行ってきました。今回の視察の目的は、町内の課題として挙げられている定住・空き家対策について先進事例を見て、今後の取組みに活かすための研修です。



1日目は、江津市波子町で活動しておられる「波子まちづくり活性化協議会」にお邪魔しました(写真上)。この地域には、10年先にどうなりたいかを共有して、波子町を良くしたい人たちが12名集まった活波クラブがあり日々活動しています。10年先を見ているので、急激な変化ではなく、じわじわ地域を元気にさせていました。会長の黒川光憲さんは、「長期的」「じっく

り」「じわじわ」「急がば回れ」ということを言われていました。

そして2日目は、山口市阿東町にお邪魔して定住コンシェルジュの田村哲信さんや役場職員と情報交換を行いました(写真下)。田村さんは、地域の空き家や空き家になりそうな家を移住者に紹介するための調査や地元の方との話し合いなどを行い、役場職員と協力し定住推進・地域振興を図っておられました。阿東町は山口市街地へのアクセスが40分程度と美郷町と似ている交通事情で、少し高齢化が進んだ地域でしたが、元気のある地域でした。新たに空き家を使ったプロジェクトが進んだ先進的な事例だったと思います。

今回の研修を通じてじっくり、着々と定住・空き家対策について考えることが必要で、それに対するヒント、対策が見えてきたのではないかと思います。少しずつじっくりと沢谷地域を変えていけるために活動していきたいと思います。



- ☆大雪、低温が暮らしを直撃!(1面)
- ☆定住・空き家対策研修(2面)
- ☆沢谷地域コミュニティ計画作成(3面)
- ☆本場中国の水餃子にチャレンジ!(3面)
- ☆今月の地域おこし協力隊(4面)

今月のピックアップ

- ☆沢谷地域連合自治会からお知らせ(4面)
- ☆行事予定(4面)



沢谷地域コミュニティ計画作成

現在、町においてこれからの町の羅針盤とも言うべき『第2次長期総合計画』を策定作業が進んでいます。これは平成28年から37年までの10年間の町の産業や福祉、教育などあらゆる面の将来構想を取りまとめるもので、できあがるとひとつの本にして住民に示すことになっており、出来上がるのは今年の6月頃の予定です。

この計画の中に、連合自治会ごとの将来構想を取りまとめた『地域コミュニティ計画』を作るように町から依頼があり、沢谷地域においても昨年準備を進めてきました。

沢谷地域では『笑顔で安心・出会いに感動・みんなが主役のさわだに物語』をキャッチフレーズにして平成18年に地域コミュニティ計画を策定し、その後、平成23年にも同じキャッチフレーズで内容を少し見直して策定しています。平成25年には、3年間で900万円の助成を受ける過疎ソフト交付金事業の計画づくりをし、県や中山間地域研究センターの指導も受けながら、50名を超す沢谷地域の住民グループ代表の方と話し合いをして来ました。

今回は役員会で相談して、連合自治会事務局と各部長、地域おこし協力隊、地域担当職員との10名で、今までの計画をベースにし、コミュニティ計画の素案を取りまとめることにし、その案を自治会長を含めた役員会で成案にする

予定です。

沢谷地域には伝統行事がきちんと保存されており、また風景を活用した行事も定着して来ています。青パト隊やお元気サロン(写真左)などの安全安心の活動も続いています。



しかし、依然として高齢化が進み、空き家が増え、イノシシの被害も減ってきません。自治会でも若い後継者が不足しています。

こうした課題を少しでも解消し、元気な沢谷地域を維持継続していくため、いろいろな行動計画を考えております。

安全安心な地域づくりのための移動手段の確保や災害時の互助体制づくり、インターネットを活用した沢谷の情報発信とファン倶楽部などの交流人口拡大、食と健康をテーマにした地域の食文化の伝承、桜街道など地域の風景と暮らしを守り伝える活動、山菜や薬草など四季を通じた特産品作りとそのグループ育成など、大きな柱にして2月末には計画を取りまとめる予定です。

本場中国の水餃子にチャレンジ!

1月27日(水)午前10時より、交流センター調理室において、新年を迎えて初のチャレンジ教室を開催しました。

今回は、乙原の前田梅(メイ)さんを講師に迎え、本場中国の水餃子、チャーハン、中華スープを教えていただきました。

まずは、具材を切る作業から始まり、それがほぼ終了すると、餃子の皮作りの作業へと入りました。皮は、ほとんどの方が市販の皮を使用されており、自作の皮を作るのには慣れておらず、棒で薄く皮を伸ばす作業に苦戦されていました(汗)。具を皮で包む作業も色んな大きさの餃子が出来てしまい、余りに大きいものは焼き餃子へと変化していききました(笑)。

雪の影響で、参加人数が少なく、ちよつと寂しい教室になりましたが、参加された皆さんが流れるような動きで作業されましたので、時間延長することなく、時間内に3品出来上がりしました。

昼前から試食タイムとなり、皆さん「形はどうであれ、美味しい!」と言われながらいっぱい食べられていましたが、材料を20人分用意してしまいましたので、さすがに食べきれなかったもので、解散時に手土産をいっぱい持って帰っていただきました。

来月のチャレンジ教室は『ガラス細工』にチャレンジする予定です。



前田 梅(メイ)さん

今月の地域おこし協力隊

1月は大雪に見舞われて、沢谷地域も断水したりと大変でした。1日に降った量だけを見ると北海道と変わりなかったような気がします。協力隊も給水、配水作業の手伝いや除雪作業などを行いました。給水、配水作業は初めての経験で戸惑いながらも地域の方や役場の方たちと協力して行いましたが、改めて沢谷の助け合いの力を実感！除雪作業は主に交流センターや通学路の除雪を行い今回の大雪でだいぶ除雪機の扱いも慣れた気がします。その他最近の協力隊は、作業依頼が少ないので、各部会の今年度のまとめ作業などを主に行っています。来年度も、より良い沢谷地域作りに少しでも貢献出来るよう協力隊も準備していきます。(協力隊 成田)



沢谷地域連合自治会からお知らせ

自治会輸送バスの愛称を募集します。3月10日(木)までに沢谷交流センターまで連絡をお願いします。あなたのヒラメキ！をお待ちしています。



〇行事予定 (2/21~3/20)

行事	日時	場所
チャレンジ教室	2/24(水) 10:00~	多目的室
デジカメ教室	2/25(木) 3/17(木) 10:00~	多目的室
ココ健康教室(介護予防教室)	2/26(金) 3/11(金) 14:00~15:30	多目的室
青パト-斉パト-ル	3/1(火) 18:00~	交流センター-広場集合
マットサイエンス	3/10(木) 19:30~	和室
子育て支援センター	3/11(金) 9:00~12:00	和室
そばの花	3/17(木) 19:00~	調理室
健康道場	3/18(金) 19:30~21:00	和室